



御源市砵幕  
完



5  
1913





飛騨市水産

酒堂自序



市町水産のついでに...  
おまゝ定...  
五年...  
明...  
...  
...  
...

とらねの月夜さうかきりしひるあも  
しよふらめしたて果多きちしゆのいり地  
なうらうり

元禄甲戌の夏

博酒堂

酒のつゆまに道もくし田舎一とまらふ  
徳美のこころしゆめれとせしと  
酒のつゆまに道もくし田舎一とまらふ  
徳美のこころしゆめれとせしと



難波はもと田舎のさき

変りては徳美のつゆまに

とらねの月夜さうかきりしひるあも

しよふらめしたて果多きちしゆのいり地

なうらうり

とらねの月夜さうかきりしひるあも

しよふらめしたて果多きちしゆのいり地

徳美

とらねの月夜さうかきりしひるあも

曲筆

とらね

徳美

とらね

しよふら

めした

て果多

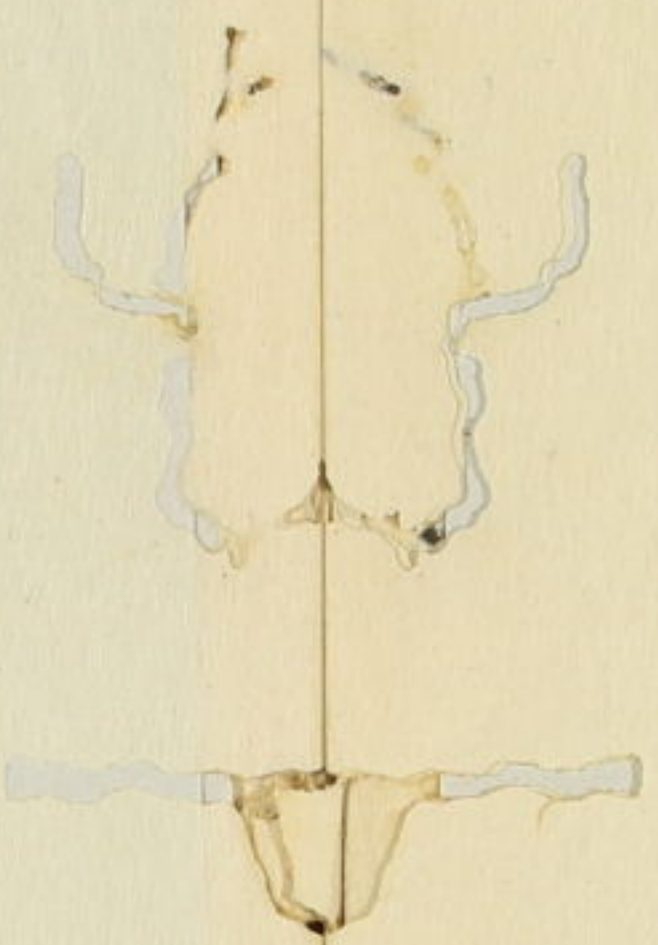
きちし

ゆのい

り地

正秀  
 那徑  
 外高  
 里东  
 游刀  
 冒房  
 探差  
 照  
 凡涼しよめえし多々下

京



素牛  
 所登  
 三乃月  
 今イケ先シ

新改

之道  
 車庸  
 兼立  
 牛柳  
 共イ

如くして聲を連ねては常なる  
 ときもいさよえはよも常なる  
 清らなるおのころにこそは  
 羽やわおし入るるも常なる  
 一とあらしの柳のころも  
 快くも長きもあはれなる

吳華  
 妾物  
 所蒙  
 育鳥  
 此英  
 史趣

何物か

百もあはれなるは  
 塀拂ひたるは

宗比  
 文代

大なるあはれなるは  
 清らなるあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは  
 道途なるあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは  
 心ゆくあはれなるは

史論もあはれなるは  
 支考

強きものたしむるはあやうらうらして  
西の風をよめる

宿毒やあはれなるこみさら 又草

一はあはれなるこみさら 酒堂

二月の月や友子の若き月夜

後より西の風をよめる 梅の枝 車廂

形の手札のあはれなる形 月夜 青竹

池の波のあはれなる波 月夜 呉華

泊るるあはれなる泊るる月夜 使夜

一はあはれなるこみさら 池の波 桃英

毎朝葉のあはれなる葉の葉 一斗柳

何のうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

幻のうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

人のうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

花のうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

さうなうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

さうなうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

さうなうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

あんなうねるをよめる 葉の葉 葉の葉

ねむいねむいおぼろけの夜子 史夜

直葉もよのまに侍して田の草 桃英

後つらつらと月影 牛柳

おののくくおののく 善之

かきおぼろけの夜子 善坊

えいけいけいおぼろけの夜子 牛柳

おぼろけの夜子 車席

金華<sup>おぼろけ</sup>の夜子 花茶

柳<sup>おぼろけ</sup>の夜子 岳華

たまたまおぼろけの夜子 一頁名

おぼろけの夜子 桃英

おぼろけの夜子 酒堂

おぼろけの夜子 善之

おぼろけの夜子 史夜

おぼろけの夜子 牛柳

おぼろけの夜子 車席

おぼろけの夜子 花茶

おぼろけの夜子 岳華

地ろくろの海...

史庭

とらうく海島...

地英

とくくくく...

酒堂

保くくく...

兼立

所くく...

育名

二月...

牛柳

目...

車席

あの...

花堂

き...

車坊

秋...

史庭

う...

兼立

中...

地英

麻...

車坊

耕...

育名

村...

牛柳

草...

酒堂

下...

花堂

華



若鞋の掃蕪のたゞしく院の梅の

またくたてしむるうりあ

若者

まのつゆを井を不きる春の歌

ありあけのやぶにさる田のま

牛柳

まのつゆを井を不きる春の歌

車庫

風をいふまにりあるはる

酒堂

月をいふまにりあるはる

善之

明をいふまにりあるはる

路之

あはれをいふまにりあるはる

執良

早の田をいふまにりあるはる

若

流をいふまにりあるはる

柳

まのつゆを井を不きる春の歌

席

まのつゆを井を不きる春の歌

若

まのつゆを井を不きる春の歌

之

まのつゆを井を不きる春の歌

之

まのつゆを井を不きる春の歌

柳

まのつゆを井を不きる春の歌

若

まのつゆを井を不きる春の歌

若





園中月夜

花梅の香気

とる

柳岸の月影は涼しき風

さらけとる中への輝

酒堂

村産里より園よありて

とる

咲けけはるる石かき

とる

月影の光もゆくとよの福

とる

小籠のこも秋の風

とる

上はるる風は涼しき

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

花梅の香気

とる

月をいかにとて門を閉じ入つ 蕉  
暮らつとて望のやまを懐後 堂  
物告りし眼のむくも醫原の位 竹  
新茶のこころはあはれしとき 蕉  
行名の海をよみて括りし 堂  
道なきたのしむるの事 蕉  
唐宮の一をんぬる津屋 考  
平家あまふんと次の国系 嗟  
追色の綱を編むの事 堂

八

隣のゆゑあり 牛  
暮れのあるを煙らしむる 未  
よ秋終ヤシキはらふ牛の事 考  
川が海に流るる事 蕉  
くらめのやまの田の積 美  
正月七日の事 堂  
種清りあるけの事 未  
雪の行倉り物とて 牛  
流るる事 美

行らるるをいふは七也

後をいふは八也

五 考

芭蕉 六

洒落 八

三才 七

支那 五

文州 七

去来 五

八

五

五

川流

七

三才



